

SIP自動運転 第3回合同試乗会の実施報告

2022年12月7日

SIP自動運転 第3回合同試乗会の開催について

参考資料（再掲）



SIP自動運転の集大成として、
臨海部実証実験の車両や、各社の先進車両を
一堂に集めた合同試乗会を開催いたします。

イベント概要情報

- 会期 2022年9月29日(木)～10月1日(土)
- 会場 お台場・青海R区画特設会場 (右図)
 - ゆりかもめ 国際クルーズターミナル駅より 徒歩6分
 - りんかい線 東京テレポート駅より 徒歩6分

対象	9月 29日	午前	省庁関係者、SIP関係者
		午後	
	9月 30日		メディア、ジャーナリスト
	10月 1日		大学生・教員、近隣地域自治会、 車両出展者 (相互試乗)



試乗会の内容について

参考資料（再掲）



試乗だけでなく各種展示も充実させ、来場者にSIP自動運転に触れていただける場としました。

イベント出展内容

① プレゼンテーション

SIP自動運転の取組を1日2回プレゼン。

プレゼンテーマ	登壇者	1回目 実施時刻	2回目 実施時刻
SIP-adus総括	葛巻PD	11:15 ~ 12:00	14:15 ~ 15:00
臨海部実証実験	南方リーダー	12:15 ~ 12:45	15:15 ~ 15:45

② 展示ルーム

実機デモ等を交えて、各施策を分かりやすく説明。

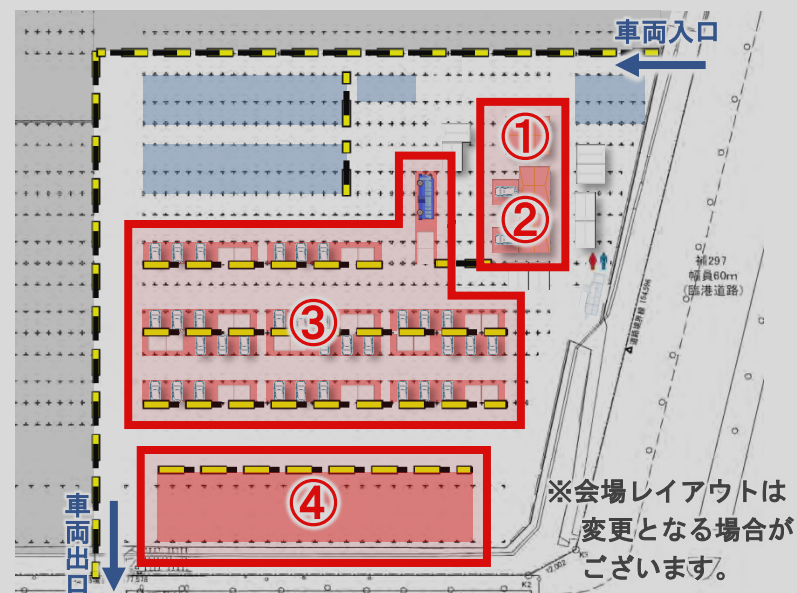
出展者名	出展内容
日本自動車研究所	リアル環境での自動運転システムの安全性評価手法
DIVPコンソ	仮想空間での自動運転システムの安全性評価手法
三菱電機コンソ	2022年度 臨海部実証実験 (V2N) 実施内容
道路新産業開発機構	地方部における自動運転実証実験 実施内容

③ 自動運転試乗体験、各社展示

試乗はもちろん、展示車両も通じて各社の取組を紹介。

④ AEB体験ブース (土曜日のみ)

世界をリードする日本のAEB技術を実車で体験。



出展者名	試乗車	展示車
株式会社ヴァレオジャパン	◎	
国立大学法人 金沢大学	◎	○
学校法人智香寺学園 埼玉工業大学		○
スズキ株式会社		○
株式会社SUBARU	◎	○
ダイハツ工業株式会社		○
株式会社ティアフォー	◎	○
トヨタ自動車株式会社	◎	
日産自動車株式会社	◎	○
ビー・エム・ダブリュー株式会社	◎	○
本田技研工業株式会社	◎	○
マツダ株式会社	◎	

試乗会の開催模様

参考資料



開催風景



①-1. 葛巻PD プレゼン



①-2. 南方FOTリーダー プレゼン



②-1. JARI展示



②-2. DIVP展示



②-3. V2N展示



②-4. 地方実証 HIDO展示



③. 試乗体験 (集合写真)



④. AEB体験 (最終日のみ)

今回試乗会の来場者数は249名、試乗者数は225名となった。
 前回試乗会の試乗者数(2日間で104名)を、1日平均で44%上回った。

	来場者数						うち試乗者数 (実人数)
	メディア	省庁、行政官	学生、教員	地域住民	SIP関係者・ その他※	(合計)	
9月29日(木)	21人	57人	0人	0人	15人	93人	82人
9月30日(金)	59人	0人	0人	0人	16人	75人	63人
10月1日(土)	4人	1人	41人	2人	33人	81人	80人
合計	84人	58人	41人	2人	64人	249人	225人

※その他には、出展者中の試乗体験者の人数を含む

	延べ試乗者数	走行可能回数	平均試乗回数	平均同乗人数
9月29日(木)	120人	75回	1.5回/人	1.6人/回
9月30日(金)	120人	75回	1.9回/人	1.6人/回
10月1日(土)	141人	66回	1.8回/人	2.1人/回
合計	381人	216回	1.7回/人	1.8人/回

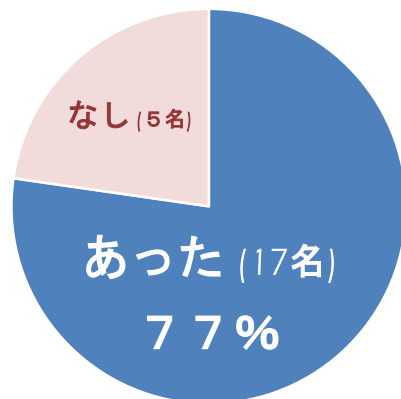
同乗人数が少なく、
体験の質が高い状況
(省庁、メディア等)

試乗回数が多く
体験の量が多い状況
(メディア、学生等)

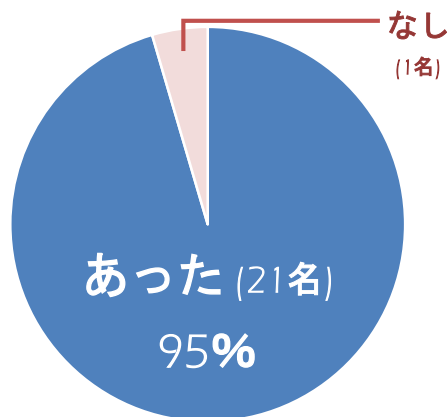
省庁・行政官の95%、学生の100%が、前向きな変化を得たと回答。

省庁・行政官 (後日アンケート)

○. 自動運転車・技術・社会等への印象の変化はあったか？



○. 自身の業務への影響や役に立つことはあったか？

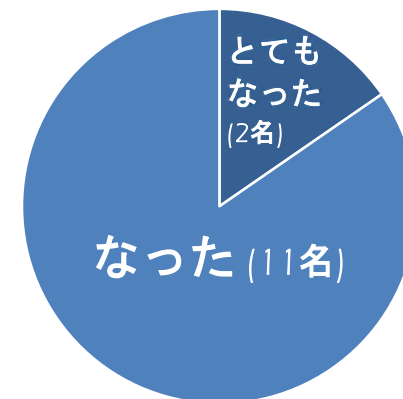


【ご意見抜粋 (一部要約)】

- ・ (今回の経験が) 自動運転の社会実装に向けた目標設定の方向性に活かせると考える
- ・ 自動運転L3以上の社会実装前に、現実解としてL2の普及が安全・安心に繋がるものと理解した
- ・ 技術レベルを過信することで重大な事故を起こしてしまう危険性を知ることができた
- ・ 自動運転が障害者運転支援や安全運転支援に繋がることを理解し、大変価値ある展示と感じた
- ・ 自動運転を障害者向けの福祉車両にもっと活用するべきと感じた
- ・ 自動運転に求められる技術、運転支援に求められる技術の技術レベルの違いがはっきり分かった

学生 (当日インタビュー)

○. 自動運転への興味関心の向上のきっかけになったか？



【ご意見抜粋 (一部要約)】

- ・ 研究しているが、試乗で理解が深まった
- ・ 試乗中、たくさん質問でき勉強になった
- ・ プレゼンでSIP10年の流れを知ることができた
- ・ 山間部のパッケージサービスが魅力と感じた
- ・ 軽自動車の自動運転ノウハウは新鮮だった
- ・ 自動運転技術に関わる職に就きたいと感じた

質を狙った結果、SIP自動運転全体の取組を紹介する記事が増え、「出口戦略」等の重要キーワードも織り込まれた記事も見受けられた。

日刊自動車新聞 電子版

トップ > 企画・解説・オピニオン > 自動運転技術の現在地は？ SIP展示試乗会、自動車メーカーの実験車両がずらり

自動運転技術の現在地は？ SIP展示試乗会、自動車メーカーの実験車両がずらり

2022.10.05 / 企画・解説・オピニオン [ツイート](#)

東京臨海部で9月29、30日に開かれた内閣府のSIP（戦略的イノベーション創造プログラム）自動運転の展示試乗会で自動車メーカーが自動運転の実験車両を公開した。自動運転では、ホンダが2021年3月にリース販売を始めた「レジェンド」で世界初の「レベル3」（条件付き自動

くるまのニュース

くるまのニュース > ビジネス > 「手放し運転」も進化中！ クルマの自動運転、その現在地は？ 産官学連携「国家プロジェクト」SIP-adusの試乗会で実体験

「手放し運転」も進化中！ クルマの自動運転、その現在地は？ 産官学連携「国家プロジェクト」SIP-adusの試乗会で実体験

2022.10.06 熊田健史

クルマの自動運転の国内最先端を実感できるSIP-adus試乗会に出席。自動車メーカーなどの民間企業をはじめ、国や教育機関なども連携して進む国家プロジェクトは、どのようなものなのでしょうか。

自動運転開発の国家プロジェクトが始まった背景は？

日進月歩で研究・開発が進むクルマの自動運転。今回、その最新技術を実感できるSIP-adus試乗会が、東京のお台場で開かれました。

この試乗会は一時的にはあまり知られていませんが、実はオールジャパン体制で進めている国家プロジェクトを紹介する場なのです。

clickcar 12h

Home > ビジネス・テクノロジー > 自動運転

初公開多数！ 東京お台場に国産メーカーの自動運転テクノロジーが集った日【週刊クルマのミライ】

公開日 2022/10/02 12:21 更新日 2022/10/02 12:22 山本貴也

目次

- 自動運転の国家プロジェクトが始まって9年が経った
- スバルが世界初公開、ホンダも日本初公開
- 交通空白地をカバーする小さな自動運転車に期待
- 自動運転テクノロジーと量産車のミライを考えた

■自動運転の国家プロジェクトが始まって9年が経った

2022年9月、東京お台場の特設会場にて「SIP自動運転 実証実験プロジェクト 展示・試乗会」が開催されました。

展示・試乗会のテーマは「交通事故ゼロ社会を目指し、世界に先駆けて日本版自動運転技術の普及を目指す」。

Automotive media response.

2022年10月1日（土）20時30分

タクシーや路線バスの自動運転を体感、実用化への“距離”も見えた…SIP 展示・試乗会

いま国内の自動運転技術は、どこを走り、どこへ向かうとしているか。そんな自動運転トレンドが体感できるイベントが、東京臨海部心、青海R地区で9月29日～10月1日に行われた。内閣府が手動するSIP自動運転（システムとサービスの拡張）プログラムの「SIP 自動運転 実証実験プロジェクト 展示・試乗会」だ。

東洋経済 ONLINE

自動車最先端 > 自動運転

「自動運転」ブーム終焉か？ 最終準備段階か？

最前線での取材でわかった自動運転のこれから

熊田 健史：ジャーナリスト [見る＆フォロー](#) 2022/10/15 15:00

GoogleやAppleといったテック企業の参入や、日本全国各地での実証試験の実施など、一時は大きな話題となった車の自動運転。ところが、以前と比べるとテレビやネットニュースを通じてその話題に触れる機会が減った印象がある。

メディア露出状況 (2022/11/22時点)：42件

	件数	掲載媒体
専門紙	1件	交通毎日新聞
Webメディア	10件＋転載25件	日刊自動車新聞、東洋経済、Response、他
YouTube	1件	吉田由美ちゃんねる
ライターブログ	1件	吉田由美氏のなんちゃってセレブなカーライフ
企業サイト	4件	JARI、金沢大学、埼玉工業大学、NEDO

メディアだけでなく、自動運転に関わる皆さまの意識変化を得られた。
出展者間での交流の機会ともなり、今後に繋がる成果を得た。

(参考) 事業者による考察

- 現場での参加者との会話では、SIPへの理解がかなり進んでいることが感じられている。
 - 参加した各社がお互いにより刺激を受けていた。
 - 記事の面でもSIPとしての取り組みや今後の自動運転のあり方に言及するものが多く、集大成としての企画が当たったと考えられる。
 - 新しい試みである主催者展示ゾーンも、メディア、ジャーナリストには見学いただけており、記事化もされている。試乗、プレゼンテーションに加えて新しいネタとして機能している。
 - 以上のような点から、数量だけではなく、質的な進化の見られた試乗会だったと総括できる。
 - 各調査(アンケートやインタビュー)においても、自動運転車両への試乗体験が興味・関心の向上に与えるインパクトがかなり大きいこと、また自己業務への好影響や社会実装への期待感など好感とともに受け取られている様子が見られる。
 - 運営面では試乗の割り当てなども含め、概ね細かい対応について好感を持って受け入れられていると見られる。但し一部参加者からは、案内の表現が不十分とお叱りも受けた(案内した時間中に自由に来場するとの誤解が生まれ、試乗がキャンセルされた)。
 - 天候に恵まれたがかなり暑くなったため、テント内でのプレゼンテーションには厳しい環境でもあった。風を通す、水を配るなどの対応を行ったが、理想的には屋内の環境の良い場での説明が好ましい。
- 試乗会と展示やプレゼンテーションの連動により、参加者が増大し、また試乗と展示、プレゼンテーションを一連で体験することが、より強い印象となり、理解促進や興味・関心の向上につながっていると考えられる。